∞∞
ニュースレター「がん１１０番」第33号 **2009.3.20**

NPO法人 がん患者支援ネットワークひろしま
∞∞

● 井上さんの書籍紹介

切らずに治すがん治療
－最新の「放射線治療」がわかる本－
　　著者：中川 恵一
　　出版社：法研
　　価格：￥ 1,680
　　発行：2007 年 6 月　初版

はじめに

　がん治療の 3 本柱は、外科的治療、放射線治療、化学療法ですが、現在の日本には、放射線治療に関する情報はほとんどないのではないでしょうか。
「頭に放射線をかけると、脳に障害がでませんか？」
「放射線で、逆にがんができるのではありませんか？」
「カツラを用意したほうがいいですか？」
　中川先生が「放射線治療をしましょう」と伝えられた時、患者様がされる質問です。先生はあまりにも実情とかけはなれているのでビックリされるそうですが、私もこの本を読むまでは、答えられませんでした。
　「がんになった人の半分は、放射線療法を受ける」というのが、今日の世界の常識で、アメリカでは 6 割以上の患者さんが受けている。この治療に対する期待と要望が高いのが世界の実情だそうです。
　皆様も、本書で一緒に勉強してみませんか。そして、わからないことは、当会の理事長、廣川裕先生に尋ねてみませんか。

著者紹介

　1985 年東京大学医学部ご卒業。同年、同大学放射線医学教室に入局。2002 年より、東京大学医学部附属病院放射線科准教授。2003 年より、同病院緩和ケア診療部長(兼任)。ご専門は、がんの高精度放射線治療と緩和ケア。

本書の内容・感想・まとめ

　本書を読んで最も驚いたことは、欧米と日本との、子宮頚がんの標準治療法の違いである。本書より抜粋する。
　早期子宮頚がん(Ⅰ、Ⅱ期)の患者さんに対する放射線治療と手術の治療成績(生存率)を比べると、まったく同じであることがわかった(1997 年ランセット誌)。さらに、最近、放射線に抗がん剤を組み合わせる「化学放射線療法」を行うと、もっとよい結果が得られることがわかった。まとめると、「手術＝放射線治療<化学放射線治療」。他方、手術を行われた患者さんの中には、排尿障害、リンパ浮腫(脚がパンパンに腫れる)で苦しむ方も多い。よって、第一選択は、化学放射線治療といって差し支えない。「子宮頚がんは放射線治療」が、世界の標準なのだ。
　欧米では、Ⅰ期、Ⅱ期では、放射線治療を行うのが一般的である。ところが、日本では、普通、Ⅰ期、Ⅱ期の子宮頚がんには、子宮とそのまわりの組織を全部とってしまう手術が行われている。Ⅱ期で比べると、欧米では 8 割が放射線治療、日本では 7 割が手術と、割合が完全に逆転している。日本は、驚くほどの手術大国なのだ。

さらに問題なのは、ほとんどの患者さんがこの事実を知らされず、手術をすすめられていることだ、と中川先生は指摘されている。私もまったく同感である。

次に、肺がんについても勉強させていただいた。早期がんならば手術が中心で、最近は、胸腔鏡手術が主流になりつつあり、患者様も医者も楽になったと思っていた。本書により、この認識を改めた。

定位放射線治療という最新技術の登場で、「手術が中心」という考え方が大きく変わったというのだ。肺がんの中で約 8 割を占める「扁平上皮がん」「腺がん」は、放射線がよく効くがんなのだ。ＩＡ期～ＩＢ期で手術を受けた患者さんと、定位放射線治療を受けた患者さんの 5 年生存率を比べると(多施設研究)、68%と 78%で、定位放射線治療が上回っている。これは、放射線治療の方が体に優しく、免疫力を温存できることも関係しているのではないかと推測されているようだ。死亡率と後遺症の発生する率は、手術では、3%、15%であるのに対し、定位放射線治療では、0%、2%。安全面でも優れている。そのため、2004 年度から保険適用になった。

そのほか、前立腺がん、食道がんなど、放射線治療の進歩が著しくかつ効果的であるがんについても、理解に役立つ図と、わかりやすい文章で説明してある。

なぜ、このように放射線治療が急速に進歩したのか。一つは、コンピュータ技術などの技術革新。もう一つは、EBM(Evidence-based Medicine；根拠に基づく医療)という概念が 1990 年代に提唱され、この手法により、放射線治療が正しく評価されたこと。この 2 点を挙げられている。

最後に中川先生の思いを、「はじめに」より抄出する。

『みなさんは家やクルマなどの高価な商品を買うとき、日用品を買うときよりさらに慎重になるはずです。インターネットで調べたり、本を買ったり、詳しい人に話を聞いたり、あるいは、ショールームに足を運んで、実物を確かめたりすることでしょう。

医療だって、冷静に考えればサービスという「商品」です。しかも、がんの治療は、家やクルマよりさらに切実な「商品」です。何しろ、あなたの命と、その後の人生と、死ぬまでつきあわなければならない体が、その「商品」の性能、サービスの成果にかかっています。

賢い消費者になって、商品情報（治療に関する情報）を集め、サービスの提供者である医療従事者と率直に話し合い、最善の治療に、ぜひたどり着いていただきたいと思います。そして、そのために本書が少しでも役立つことを心から願っています。』

医師に「手術をしましょう」と告げられたら、「切らずにすむ放射線治療は？」と考えなければいけない時代になりつつあります。また、これからは必ず、放射線治療がお買い得になると思います。「この本を参考にして、体に優しい放射線治療について、正しい知識をもっていただきたい。」これが私の本書のまとめです。

会員　井上　林太郎